

運営維持手法研究部会

# 実務者が語る身近な省エネルギーの話 運営維持の視点で『きっかけづくり』 -その2-

運営維持手法研究部会 部会長

**吉瀬 茂** きちせしげる

JPビルマネジメント株式会社 専門役  
工学院大学 建築学部 兼任講師



今回のフォーラムでは、昨年に引き続き運営維持の視点で『きっかけづくり』-その2-と題して、実務者が省エネルギーの取り組みポイントについて事例をもとにして情報を発信した。

日頃ファシリティマネジャーが悩んでいる省エネルギーの取り組み。そこにはさまざまな課題があって、なかなか進まない現実がある。

最初は「削減」をキーワードに省エネルギー施策を進めていくが、一定のレベルに達すると「我慢」の省エネルギーになってくる。しかし、その「我慢」は長く続かない。

そこで、見えない「無駄」の追及が始まり、さまざまなエンジニアリングやノウハウが必要になってくる。そのような中で視えてきたのが、活動を進めるためのキーワードである。

『きっかけづくり』のキーワード

「知識の充実」「心構えの醸成」「継続」「目標」「広報(情報発信⇒社内をつなぐ⇒心ひとつに)」

『考動(考えて活動)』のキーワード

「公表(見える化/原単位化)と分析」「平等から公平へ(くまなく一様に⇒必要とされる所へ)」「追従から可変へ(変わらない⇒変わっていく)」「投資対効果(波及)」「想定(QCDS計画)・・・「Win & Win」

また、ファシリティマネジャーが省エネルギー施策

を進めていく上で必要となる標準的なPDCAサイクルを示した。

ここでは、ファシリティマネジャーが省エネルギー施策を実施していく中で、次のような5つの決まりが窺えた。

- 1 目的/ゴールを明確化  
みんな同じ方向を向いてゴールをめざす。
- 2 連携/目標・方針管理、中期経営計画などの同期経営システムとの施策連携(同期)をめざす。
- 3 醸成/小さく始めて大きく育てる  
きっちり作り込むよりも、まずは小さな実績を積み上げ継続することをめざす。  
スタイルではなく達成スピリットを、めざす。
- 4 体制/管理者のコーチング能力強化  
目標を摺り合わせ、執着した達成をめざす。  
成果を見せ、褒めてやる気をだし達成をめざす。
- 5 協調/余裕ある準備時間  
討議に十分な時間をかけた合意形成をめざす。

今後は、これらの課題にフォーカスをあて部会での調査研究を進めていく。

フォーラムで発表していただいた島山貴紹氏、時田真一氏、崎川必人氏、そして部会活動にご協力をいただいた全ての方々に心より感謝申し上げます。

